

平成27年北栄町議会議員研修報告書

| | |
|-----------------|---|
| 1. 日 時 | 平成27年10月27日～29日 2泊3日 |
| 2. 調査地 | 鳥取県八頭町 大阪府柏原市 大阪府泉南市 京都府綾部市 兵庫県香美町 |
| 3. 調査内容 | <p>①・6次産業化の取り組みについて（直営カフェ・通信販売）</p> <p>②・6次産業化の取り組みについて （ワイナリー・地域協働によるぶどう栽培）</p> <p>③・6次産業化の取り組みについて （障がい者雇用の促進にむけた農福連携の取り組み）</p> <p>④・水源の里事業の取り組みについて （限界集落の維持・再生に向けた取り組み）</p> <p>⑤・ふるさと教育の推進について （学校・地域における取り組み）</p> |
| 4. 調査結果 又は概要 | <p>①「ここしか食べられない」という、こだわり天美玉子(有)ひよこカンパニー「ココガーデン」の平飼い鶏の朝どれたまごかけごはんをいただきました。（とても美味しかったです）他に新鮮玉子のスイーツもあり大人気でこの日もカフェは満席でした（年間30万人）鳥取駅から40分かけた山里にどこから人がこんなに集まってくるのでしょうかと驚いて聞いてみると遠くからでもリピート客があるとのこと、店員さんも徹底的な研修を受け心地よい笑顔のおもてなしを受けました。まさにこだわりの店でした。が実は事業の中心は通販で消費者に直販が8割を占めているという。1個100円の玉子は現在全国10万人に販売。売上年間約10億円、玉子は75万個、3万羽、従業員100人で雇用創出の場所となっています。農林水産省「六次産業化・地産地消法に基づく総合事業化計画認定」事業者です。平成6年当初は一人で2000羽からのスタートで一個100円の玉子はスーパーなどでも当初は全く売れなかった。（1日1個しか売れなかった日もある）がその自然で育てた玉子に絶対の自信があり、発信し続けた。ゲージ飼育をせず、自由に歩き回る「平飼い」で育てた鶏を抱いている小原社長の笑顔がとても印象的でした（新聞）熱い心を持った一人の思いが人を動かし、地域活性化につながっている。原料供給に留まらず最終製品まで携わり付加価値を取り込む、まさに未来へと続く先駆者を感じました。</p> |

②仕掛け人の「地域のブドウ畑を残そう」との呼びかけにブドウ畑にレストランが始まった。1万円以上の食事に全国各地から人が集まってくるという。コンセプトはブドウ畑を再生して古民家で発信する。「山の中の辺鄙な場所で誰も出来ないから面白い」とカタシモワインフード社長。サラリーマンをやめ、100年続いた伝統の「大阪葡萄」の引継ぎを決心した。地産地消、地元の産業は地元で守る。地域を巻き込み山の傾斜にブドウ畑を復活させ、自慢のワインの造りを知ってほしいと畑と工場見学、社長自身の自信に満ちた説明を聞きながら試飲させていただいた。「大事なのはスーパー問屋ではなくて消費者、消費者をどう巻き込むか」国の施策（地域再生、地域資源活性化法など）をキーワードに戦略を練り補助金を積極的に応募する。マスコミ（無料）取り上げられるような理由を考える。作った商品を完売する。サービス産業の三次産業は儲かる、おもしろいが一人では長続きしない。たくさんのお客のいろいろな知恵で継続できる。どこよりも負けない美味しいブドウを作ること、自己責任でやれることが大切である。共同（農協）ではダメ、地域だけで売ってもダメ・・・やはり全国発信。儲かる仕事でないと後継者はいない。力強い社長さんの話に引き込まれ、その戦略と努力に感心し、よい勉強になりました。北栄町にも仕掛け人が必要です。

③農福連携の取り組みとしてコクヨグループの「ハートランド(株)」のサラダほうれん草の水耕栽培作業所を見学しました。広大な土地と大きなハウスに驚きました。19名の従業員の内障がい者7名で今まで雇用がなかった知的障がい、精神障がいの方の働く場が確保されています。これからの時代は障がいがあるなしで判断せずみんなが働ける場がもっとたくさん出来てほしいとおもいました。

④小さい集落（5軒6人）の元気なおばちゃんの作る栃の実せんべいをいただき、あたたかい気持ちになりました。「いつまでも元気で居てね！」90歳前後の3人のおばちゃんにはボランティアが3000人の応援者がいます。道路や山の整備、栃の実拾いなどが自主的に行われます。このような限界集落が活性化したのは1、四方市長が目を向けたこと2おばちゃんたちが意欲があり前向きで好奇心が旺盛なこと3マスコミなどに取り上げられボランティアなどの応援組織ができたことなどです。年を重ねても見習いたいですね！

⑤香美町の教育について様々な取り組みがなされている。27年度ふるさと教育推進事業として、推進委員会が設けられ地域教育推進委員・公民館長、校園長代表、PTA協議会代表、語り部経験者・文化財審議会代表などで組織し、地域一体となったふるさと

教育推進体制の確立と推進啓発活動をしている。ふるさとのしり博士（自然・歴史・伝統文化・産業・観光等専門分野に詳しい人）を登録し体験活動やPTA活動などに関わっている。学校支援、地域支援事業で700人の登録があり、学校地域の依頼に応じて活動している。ふるさと体験フィールドワークでは自然体験や環境学習などの様々な地域を巻き込んだふるさと教育を実践し、今では地域での行事参加は全国でも高く、将来は地域に帰りたいという思いを持って卒業する子が増えた。と説明を受けた。本町でも教育の様々な取り組みはされているが、地域を巻き込むことと、ふるさと教育を取込み、地域に根付く人材育成の推進を積極的に進めていく必要があると感じた。

| | |
|--------|--|
| 5. 所 感 | <ul style="list-style-type: none">・ 六次産業化に関しては <ol style="list-style-type: none">1 地域に根ざした先導する太っ腹な戦略的なリーダーが必要である2 これからの時代はネット販売、マスコミを利用した積極的な宣伝が必要3 一人では出来ない。周りを巻き込むことが必要である |
|--------|--|

提出〆切 平成27年11月9日